

女性の活躍で 新しい風を吹き込む 令和3年度 糸島市消防団女性団員募集

令和2年度から、糸島市消防団に4人の女性消防団員が誕生し、活動を行っています。
つきましては、令和3年度に入団される糸島市消防団女性団員を募集します。
女性ならではの視点を生かして、市民の安全・安心を守る、女性団員の入団をお待ちしています。

応募資格

- ・ 糸島市に居住、勤務、通学されている
18歳以上の方
- ・ 元気でやる気のある方

募集人数

8名程度（令和3年度）



今年度入団した4人は、消防団行事への参加や応急手当訓練などに参加しながら啓発活動を行った

申し込み方法

消防本部警防課窓口、コミュニティセンター窓口、市ホームページに応募用紙がございます。応募用紙に必要事項を記入の上、消防本部警防課までご提出ください。

申し込み期間

令和2年11月1日（日）から令和3年2月28日（日）まで

主な活動内容

- ・ 消防団行事への参加
 - ・ 火災予防、地域防災に関わる啓発活動
 - ・ 消防団員加入促進の広報活動
 - ・ 応急手当普及啓発活動
- 等

【問い合わせ先】

糸島市消防団（消防本部警防課）担当：江藤亮玄
TEL：直通：332-8027
メ-ル：keibo@city.itoshima.lg.jp

令和2年度 伊都国歴史博物館冬季特別展

「鉄輪の軌跡ーいとしまの鉄道111年ー」展

令和2年度の伊都国歴史博物館冬季特別展として、「鉄輪の軌跡ーいとしまの鉄道111年ー」展を開催いたします。

記

1. 名称 北筑軌道株式会社開業111周年記念事業
『鉄輪の軌跡ーいとしまの鉄道111年ー』
2. 主催 糸島市立伊都国歴史博物館、糸島市教育委員会
3. 協力 九州旅客鉄道株式会社唐津鉄道事業部、九州鉄道記念館
4. 会場 糸島市立伊都国歴史博物館1階企画展示室
5. 会期 令和3年1月23日(土)～3月14日(日)
6. 開館時間 午前9時～午後5時(入館は16時30分まで)
7. 休館日 月曜休館
8. 料金 大人300円(団体200円) 小・中・高校生150円(団体100円)
※団体割引の適用は20名以上、障がい者及び付き添い人は無料

9. 開催趣旨

令和2年度冬季特別展として、糸島に展開した軌道・鉄道をテーマとした展示会を開催します。

糸島に軌道が敷かれたのは、明治42(1909)年に、主に糸島の資本によって設立した北筑軌道株式会社の開業により始まります。加布里ー今川橋を結ぶこの軌道は、糸島から福岡への交通・農水産物輸送の便を図る目的で計画されました。この軌道事業は、糸島の人々も協力的で、資金や土地の無償提供、労働力まで提供しており、まさに期待された軌道といえます。翌年の明治43年には博多電気軌道へ合併されましたが、北筑線として昭和3年まで機能しています。

一方、大正8(1919)年に設立した北九州鉄道株式会社は、伊万里・唐津と福岡を直線的に結ぶ路線を計画し、その路線は現在のJR九州筑肥線の原型となっています。浜崎ー福吉間の営業から始まり、大正15年には博多駅と東唐津駅が直通となりました。北九州鉄道は観光に力を入れており、当時としては画期的な銀色の流線形車両(ジハ50・60)の導入や沿線名所案内、絵葉書などによる乗客誘致を行い、折からの観光ブームにより、経営の安定化に目途をつけました。しかし、昭和12年、戦争に突き進む情勢に飲み込まれ、北九州鉄道は、国策の元、鉄道省に買収、国有化されました。

戦後の昭和 24 (1949) 年に日本国有鉄道が発足すると、C11 型蒸気機関車やDE10 ディーゼル機関車が客車を力強く牽引している姿が見られましたが、エネルギー政策の見直しにより、石炭などの貨物輸送から旅客輸送への転換が迫られ、液体式ディーゼル動車（キハ 10～40 系）が主力になります。

そして、筑肥線は福岡市営地下鉄との接続を前提に、線路改良・電化・線路変更の大規模工事を行い、昭和 58 (1983) 年に筑肥線電化開業します。その後、民営化により九州旅客鉄道株式会社（JR九州）筑肥線となり、平成 12 (2000) 年から 303 系、平成 27 (2015) 年から水戸岡鋭治デザインの 305 系電車が登場し、糸島の人々の足として日常を支えています。

このような筑肥線の歴史は、明治から令和まで駆け抜けた先人たちが、この地域の発展を目指し、傾けた情熱と努力の賜物であると言えます。

10. 主な展示品

- ・ 創立総会決議事項通知（北筑軌道）
- ・ 回数乗車券・列車時刻表（北九州鉄道）
- ・ 絵葉書（ジハ 50、長垂海岸など）・唐津海水浴場濱の家行き券（北九州鉄道）
- ・ 硬券・小型合図燈・腕木式信号機・制服・制帽（国鉄）
- ・ 浜崎駅連動制御盤・305 系車内放送用マイク（JR九州）

など総数 146 点余りの展示品を予定

11. 関連事業

【筑肥線の追憶－宇都宮照信鉄道写真展－】

九州鉄道記念館の副館長を務め、鉄道写真家で有名な宇都宮照信氏が、筑肥線を中心に撮影した鉄道写真 18 点を公開します。

会期：令和 3 年 1 月 23 日（土曜日）～3 月 14 日（日曜日）

会場：糸島市立伊都国歴史博物館 4 階展望スペース

【特別講演会】

日時：令和 3 年 3 月 6 日(土)14：00～

演題：「九州・福岡の鉄道史－筑肥線を中心に－」

講師：渡部邦昭氏（九州歴史資料館 学芸調査室）

【問い合わせ先】

糸島市立伊都国歴史博物館（教育部 文化課 博物館係） 担当：江崎

〒819-1582 福岡県糸島市井原 916 番地 TEL：092-322-7083 FAX：092-321-9155

メール：esaki.y.725@city.itoshima.lg.jp

「鉄輪の軌跡—いとしまの鉄道111年—」 展示概要

会期: 令和3年1月23日(土)～3月14日(日)

月曜休館

料金: 大人300円(団体200円)小・中・高校生150円(団体100円)

※団体割引の適用は20名以上、障がい者及び付き添い人は無料

会場: 伊都国歴史博物館1階展示室(福岡県糸島市井原916番地)

第 I 章

軌道、いとしまを走る—北筑軌道の時代

明治42年、糸島の資本家によって「北筑軌道株式会社」が設立し、翌年には加布里—今川橋を開業しました。軌道とは、一般道路上に設けられた鉄道のことです。

この軌道の道路拡張工事や敷設工事は、糸島郡総出で、資金や労働力、土地の提供が行われており、軌道に対する期待の高さがうかがえます。

北筑軌道は、時速12km程度のゆっくり走る小型蒸気機関車が客車を引いており、加布里—今川橋間で約2時間程度かかりました。

翌年の明治43年には、博多電気軌道と合併しましたが、昭和3年まで北筑線として活躍していました。



長垂海岸を走る北筑軌道(絵葉書)
(個人蔵)



北筑軌道創立總會決定事項通知書
(伊都国歴史博物館蔵)

第Ⅱ章

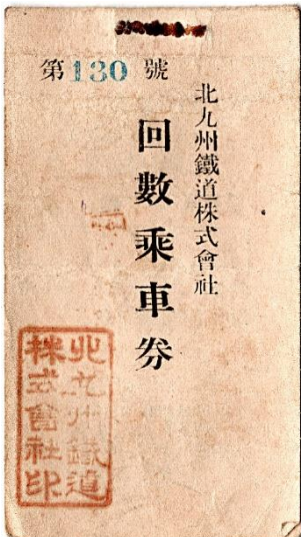
都市を繋ぐ近代鉄道の幕開け—北九州鉄道の時代—

現在の筑肥線は、さかのぼれば、この北九州鉄道の開業路線が原型になります。

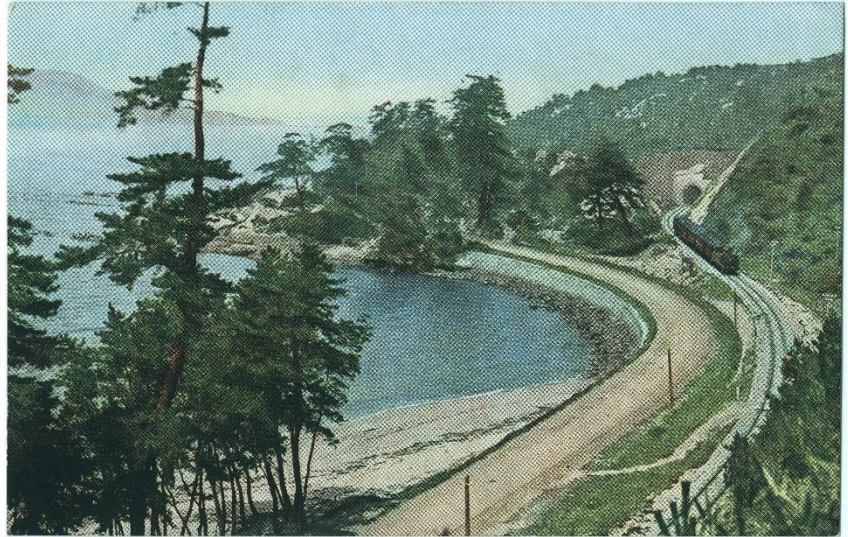
それまで、福岡から唐津へ行くためには、鳥栖を経由する迂回ルートしかありませんでした。これを解決するため、大正5年に「北九州鉄道株式会社」が設立しました。

当時の列車は、ガソリン動車で、中でもジハ50は流線形が美しく、「白銀の女王」とまで呼ばれました。

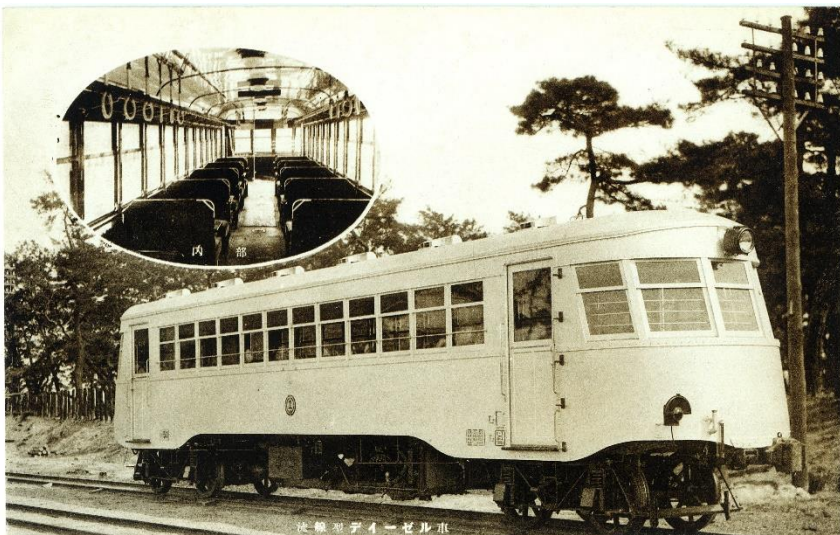
その後、経営難に苦しみながらも昭和10年に博多—伊万里間の全通開業を果たしました。観光客誘致や貨物輸送など積極的に事業展開しましたが、戦争を背景とした国策のもと昭和12年に鉄道省に買収されました。



回数乗車券
(個人蔵)



長垂海岸を走る北九州鉄道(絵葉書)
(個人蔵)



北九州鉄道のジハ50
(絵葉書)(個人蔵)

第Ⅲ章 観光鉄道に活路を求めて

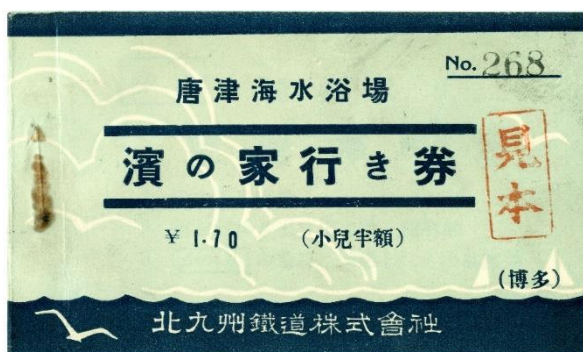
1910年代の世界的な「第2次観光革命」を背景に、日本においても鉄道網の充実に伴ない、「近代ツーリズム」が定着し、観光がブームとなります。

北九州鉄道も観光に力を入れ、沿線の景勝地や名刹を紹介する絵葉書やリーフレットなどが作られ、配布されています。

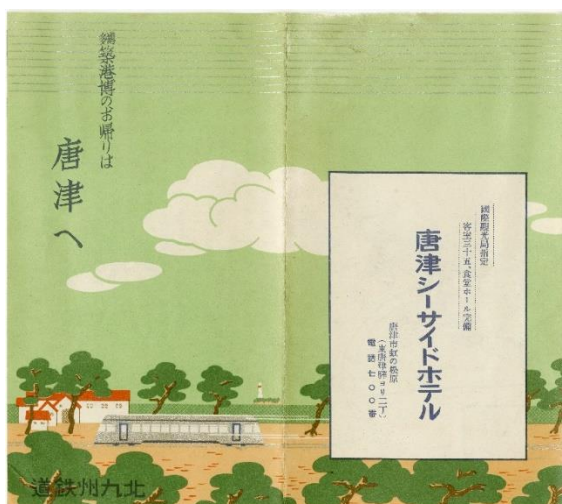
深江・今宿は、夏季シーズンに海水浴場が開かれ、仮停車場が開設されました。また、本社のある東唐津駅には、「濱の家」と呼ばれる行楽施設やホテルが建設され、観光客誘致に励んでいました。



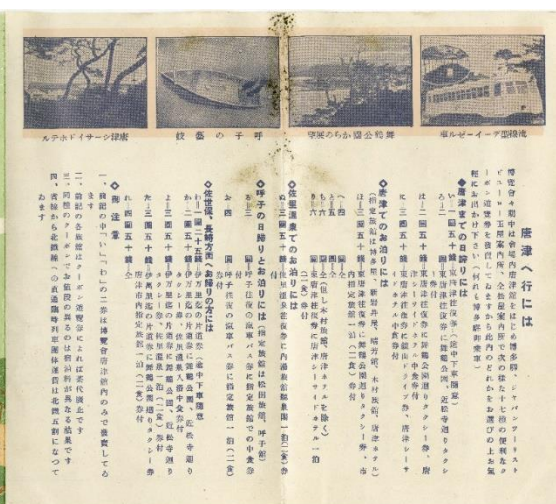
北九州鉄道沿線名所案内(個人蔵)



唐津海水浴場 濱の家行き券(個人蔵)



博多築港博パンフレット(昭和11年)(個人蔵)



北九州鉄道沿線名所遊覧図絵(昭和2年)
吉田初三郎筆(個人蔵)

第IV章

蒸気からATOへー日本国有鉄道の時代ー

昭和24年に日本国有鉄道が発足し、筑肥線は門司鉄道管理局の管轄となりました。当初は、C11蒸気機関車やディーゼル車が、旅客や貨物輸送の中心と担っていましたが、昭和44年に蒸気機関車が廃止しました。

その後、DE10ディーゼル機関車やキハ10～40系のディーゼル気動車が主流となりましたが、自動車の普及により、鉄道貨物も減少し、昭和50年6月に筑肥線の貨物取り扱いが廃止されました。

昭和58年3月22日には、福岡市営地下鉄の開始と筑肥線電化開業により、相互直通運転が可能となり、ATO(自動列車運転システム)を搭載した103系(国鉄)や1000系(福岡市交通局)の通勤型直流電車が活躍しました。



C11蒸気機関車(周船寺ー波多江間)
(写真提供:宇都宮照信)



西新駅に停車するキハ30系
(写真提供:宇都宮照信)



通票(個人蔵)



改札ばさみ・車内確認用パンチ(個人蔵)



ホーム乗り番案内(個人蔵)

おわりに

新たなる価値の創造-九州旅客鉄道の時代-

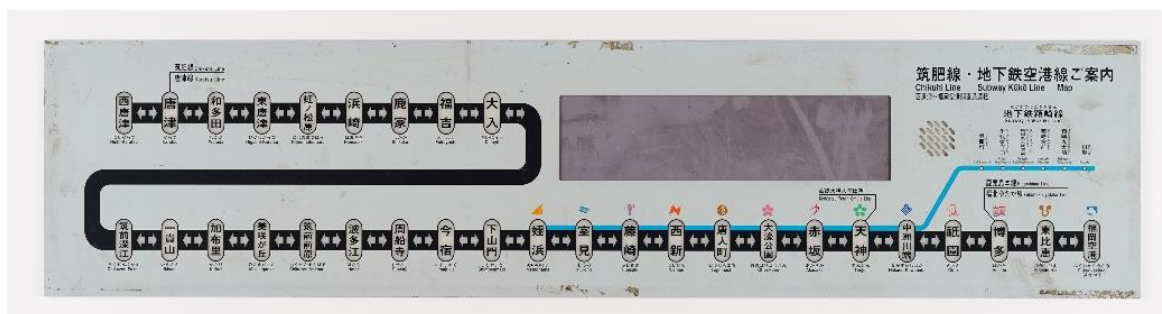
九州旅客鉄道株式会社発足後の筑肥線は、乗客数の増加は著しく、姪浜－筑前前原間の年間乗客数は、昭和62年に13,593人から令和元年度には46,445人にまで増加し、生活に必要不可欠な社会インフラとなっています。

また、美咲が丘駅開業(H7年)、姪浜－筑前前原間複線化(H11年)、九大学研都市駅開業(H17年)、糸島高校前駅(H31年)と町の発展と共に、利便性の向上が図られています。

最近では、平成27年から導入された305系は、水戸岡鋭治によるデザインで、303系の赤に混じって、白色の車両が見られるようになりました。



桜と305系(福吉－大入)(写真提供:宇都宮照信)



案内板(筑肥線・地下鉄空港線)(個人蔵)

令和2年度志摩歴史資料館冬季企画展
「EAT! いとしま ～昔むかしの食文化事情～」展

令和2年度の志摩歴史資料館冬季企画展として、下記のとおり「EAT(いーと)! いとしま ～昔むかしの食文化事情～」展を開催いたします。

記

1. 名称 令和2年度志摩歴史資料館冬季企画展

「EAT! いとしま ～昔むかしの食文化事情～」

2. 主催 糸島市立志摩歴史資料館、糸島市教育委員会

3. 会場 糸島市立志摩歴史資料館 企画展示室

4. 会期 令和3年1月23日(土)～3月14日(日)

5. 開館時間 10時～17時(入館は16時30分まで)

6. 休館日 月曜日

7. 料金 大人220円(団体110円)・高校生110円(団体50円)

※小中学生・65歳以上・障害者手帳をお持ちの方(付き添いの方1名まで)無料

8. 開催趣旨

糸島の農畜水産物は、新鮮で安心して食べられる食材として全国に知られ、今や地域ブランドとして定着しており、首都圏などにおいてもその認知度は高く、「糸島」の魅力印象づける重要な要素となっています。

このように有名となった糸島の各種食材ですが、その背景には長い歴史と独特の風土があり、今の状況を生み出しているといえます。

本展では、古くは縄文時代に遡る考古資料や民俗資料及び文献史料から糸島の「食」に関する歴史を振り返り、展示をとおして現在の地域ブランドとしての食の原点を見つめなおし、来館者に糸島の特性とその魅力を再認識してもらうことを目的に開催します。

9. 主な展示品

()内は遺跡の所在地

①考古資料からみる糸島の「食」

a 縄文時代の貝塚から出土品からみる縄文時代の食生活

動物依存体(新町遺跡、岐志元村貝塚)、黒曜石製石鏃・石鋸
(新町遺跡)

b 糸島ではじまったわが国の米づくり

・石包丁(一の町遺跡)・石鎌(御床松原遺跡)

c 弥生・古墳時代の調理具・食器

・弥生時代の木器類(上罐子遺跡)・鉄製アワビオコシ(御床松原遺跡)
・甑・移動式竈(御床松原遺跡など)の調理具

②民俗資料にみる糸島の「食」

a 糸島の民俗資料 各種食器類等

③文献史料からみる糸島の「食」

a 糸島の古代「塩」生産

・万葉集にみる藻塩焼き、観世音寺延喜五年資材帳の塩釜による製塩

b 江戸時代の地誌「筑前国続風土記土産考」にみる糸島の特産品

・糸島は江戸時代から「鯛」漁のメッカ、野北蛤、淀川ミカン

c 糸島に「酒」づくりのプロ集団がいた―「芥屋杜氏」



《本件に関するお問合せ先》

糸島市立志摩歴史資料館（糸島市教育委員会文化課博物館係）

担当：河合・河村・稲富

〒819-1582 福岡県糸島市志摩初1番地3 TEL・FAX 092-327-4422

志摩歴史資料館冬季企画展



い〜と Eat いとしま

— 昔むかしの食文化事情 —

歴史をひもとき、糸島ブランド「食」の原点にせまってみよう！

この道具を使って、どんな食べ物を作ったんだろう



2021 / 1 / 23 土 3 / 14 日 まで

糸島市立 志摩歴史資料館

福岡県糸島市志摩初1番地3
☎092-327-4422

開館時間 午前10時から午後5時まで(入館は午後4時30分まで)
入館料 大人220円(110円) 高校生110円(50円)
★カッコ内は有料入館者20人以上の団体料金
★中学生以下、65歳以上、障害者手帳保持者(付き添い1人まで)の方は無料
休館日 月曜日

